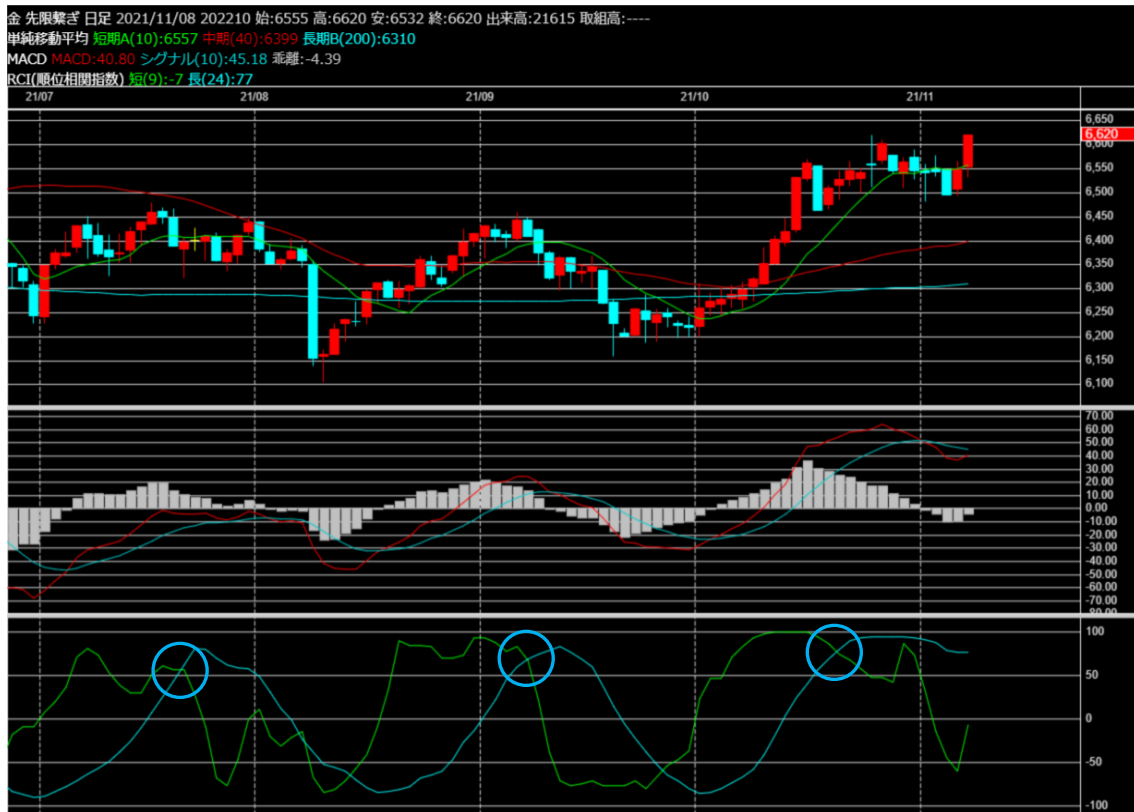


<金標準先物、早期の利上げ観測が後退し 6700 円へ・・・>



(出所：オアシス)

先週に豪州中央銀行は金融政策会合で「忍耐強く取り組む」と考えを示し、来年 5 月にも利上げがあり得るとの市場の観測を改めて否定している。また注目の FOMC では、テーパリングの開始を宣言したがパウエル FRB 議長は「労働市場の一段の回復を目にしたいため利上げに適した時期にあるとは考えていない」と発言している。また金利引き上げ観測が高かったイングランド銀行の金融政策会合でもベイリー総裁は会見で「高インフレは一時的」と言及し、利上げ観測を否定している。そのため市場の思惑が外れ早期の利上げ観測が後退している。また週末の雇用統計で雇用減少が一時的である事が示され、米国 10 年物国債金利やドイツ 30 年物国債金利は大幅に低下するなど、金利を生まない金価格も押し上げる要因に結び付いている。特に金標準先物は 10 月の高値 6620 円に届いており、今週に更なる高値を試す雰囲気を見せるなど、5 月に付けた高値 6742 円を伺う値動きには注意が必要と思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足を MACD と RCI で見ると、MACD において **MACD** が反転した動きを見せ、**シグナル**は下げており、買いサインの発生に注目され、RCI でも**短期**が上昇し、**長期**は下げ渋るなど強気基調の継続を示すなど、今週は 6700 円へ向けた値動きが予想される。そのため RCI の**短期**の上昇が維持されている間の売り狙いは避けた方が無難と思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 435,500 円（2021 年 11 月 8 日現在）です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚あたり往復 31,460 円（2021 年 11 月 8 日現在）です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社（商品先物取引業者）の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当（東京）電話 03-3249-8827（受付時間：平日 8:30～17:30）証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター <https://www.nisshokyo.or.jp>